

一般質問



渡野辺秀雄 議員

質問1 自治会・町内会の現状と今後についての考えは

市長 加入率向上等に取り組み町内会への活性化交付金を増額

問 少子高齢化の今、自治会・町内会においても様々その影響が出て来ています。北斗市の86ある自治会・町内会においても、町会運営に支障を来しているところもあるものと考えます。

私の加入している町内会でも、今後5年先の町会運営に黄色信号がともつています。

町内会の活動は多岐にわたります。

中でも、災害時の共助は町内会の大切な役割です。

しかし、都会では、解散する町内会があると聞きます。

北斗市でそのようなことはないと思いたいのですが、毎年入会者が減り、役員の成り手不足など、5年先、10年先は、どうなるのだろうかという危惧をしています。

市長は、自治会・町内会の現状と今後について、どのように考えているのかお聞かせください。

答(市長) 自治会・町内会は、地域コミュニティとして、一定の地域で、そこに住む方々が暮らしやすい地域となるよう地域課題の解決をはじめ、様々な活動を自主的・主体的に行うなど重要な役割を果たされています。

その活動内容は、地域のお祭りやレクリエーションなどを通じた親睦活動、安全・安心な社会をつくるための防災・防犯活動、清掃や環境美化活動、子どもや高齢者への見守りといった地域福祉を支える活動など多岐にわたっており、住みよいまちづくりになくってはならない存在です。

近年、核家族化や個人の価値観の多様化、少子高齢化などにより、町内会役員の高齢化・担い手不足、町内会加入率の低下が課題となっており、本市のみならず全国的にも、地域における自治活動や互助活動の機能低下が危惧されています。このことから、市では、町内会に関心を持ってもらうことが大変重要であると考え、今年度からは、「加入率向上」や「担い手確保」に取り組み町内会への活性化交付金を増額しており、財政支援にも力を入れています。

市が企画した萩野小学校6年生の皆さんと考える「北斗市のまちづくり」では、町内会活動に興味を持って、実際に活動に参加し、その大切さに気付いた子ども

たちから、町内会を盛り上げるための解決策について、子どもたちの視点で様々なアイデアを提案していただきました。

市としては、提案内容を参考にしたいと思えますし、子どもたちが町内会活動に高い関心を持つことが、将来の参加につながることも、親御さんなどに町内会の重要性を改めて認識してもらおうきっかけになると感じていますので、今後も出前授業などを通じて、このような学習や取り組みを継続してまいります。

また、引き続き、町内会を取り巻く環境の変化に対応しながら加入者を増やす工夫と世代交代がスムーズに行っていくよう、担い手育成の取り組みを単位町内会や町会連合会、さらには、多様な地域コミュニティ組織と連携しながら協議を重ね、活性化に努めてまいります。



町内会活動による地域の安全を見守る交通指導

質問2 福祉灯油の助成対象世帯の枠を広げる考えは

市長 支援制度等の対象1千177件に対し、新たに1万5千円支給

問 社会福祉協議会で毎年行っている、「福祉灯油」の助成対象世帯の枠を広げるために、市としても手だてを講じる考えはないかお伺いします。

答(市長) 社会福祉協議会が歳末福祉見舞金として実施している「福祉灯油」は、市民からの募金と、この活動に賛同する企業などからの寄付金を原資としており、70歳以上の単身世帯で一定の収入要件を満たす方などに支給されます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、いまだ家計が不安定な中、昨今の灯油価格高騰が追い打ちをかけていることから、市は、冬季生活費増高への緊急支援策が必要と判断し、本定例会の補正予算で「冬季生活臨時支援金」を提案し、議決いただきました。

支援金の対象は、社会福祉協議会が歳末福祉見舞金として1万2千円を支給する約320件に対しては、3千円を上乗せして1万5千円を支給し、また、今年度、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う支援制度等の対象となった1千177件に対しては、新たに1万5千円を支給することとしており、対象者には、速やかに案内し、年内に支給したいと考えています。